

高山市産業振興計画の素案について

1. 計画の構成

高山市産業振興計画の次期計画の構成は、次のとおりとする。

次期計画の構成	
第1章	産業振興計画の策定にあたって 策定の趣旨、位置付け、計画期間などを記載
第2章	本市を取り巻く社会情勢 人口減少、生産年齢人口の減少などの社会情勢を記載
第3章	経済構造のあるべき姿 経済構造のあるべき姿とその実現に向けた考え方を記載
第4章	経済構造の現状と課題 1. 稼ぐ力 2. 市内資金循環 3. 産業を担う人材
第5章	産業振興のための基本的方向 1. 飛騨高山ブランドの強化と基盤産業の成長促進 2. 産業間・企業間の連関性向上 3. イノベーションの促進と生産性の向上 4. 都市構造と産業振興施策の連動 5. 産業を担う人材の育成・確保と働きやすい環境づくり
第6章	基本的方向に基づく分野別の施策の基本方針と取り組み 1. 商業・工業 2. 観光 3. 農業・畜産業 4. 林業
第7章	本計画の推進に向けて 1. 地域経済懇談会 2. 経済構造の状況の把握 3. 推進のための役割分担と連携

2. 考え方と内容

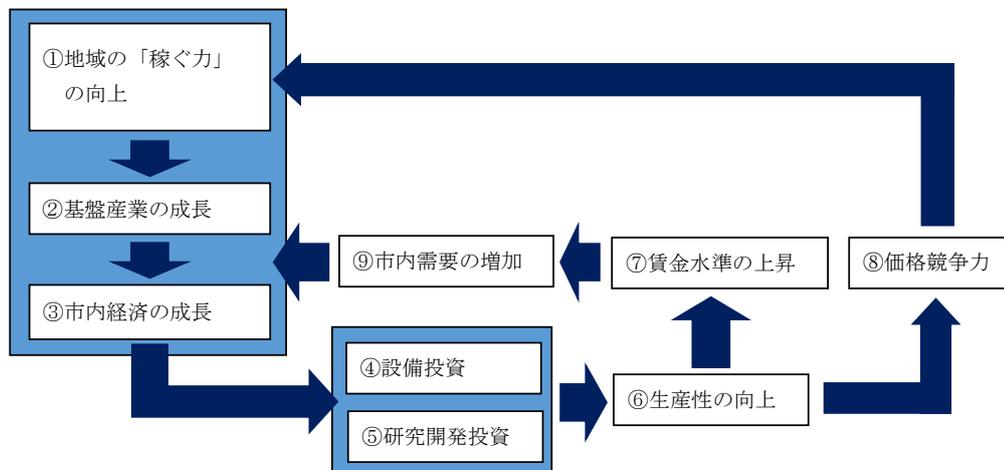
(1) 第4章 経済構造の現状と課題

次期計画における本市の経済構造のあるべき姿を「飛騨高山ブランドのさらなる強化と地域資源の活用により「稼ぐ力」が向上し、市内経済へ波及することにより「経済の好循環」が図られている」と位置付けた。

このあるべき姿は、飛騨高山ブランドのさらなる強化と豊かで特色ある地域資源の活用により、「稼ぐ力」の原動力となる基盤産業（域外市場産業）の成長を促し、市外からより多くの資金や人材を獲得するとともに、市内産業間・企業間のつながり（連関）を強化することにより、市内経済への波及と

資金循環を促進することを目指すものである。

<イメージ>



参考：まちづくり構造改革Ⅱ（中村良平著）

「経済構造のあるべき姿」の実現に向けては、経済構造の状況を示すデータを捉えるとともに、それらがどのように推移しているのかを把握し、市民、事業者等と共有していくことが重要である。

そうした観点から、上記イメージの①～③を中心とした「稼ぐ力」、④～⑨を中心とした「市内資金循環」、①～⑨の全体を下支えする「産業を担う人材」の3つの視点で本市の経済構造の現状と課題を整理した。 別紙1

(2) 第5章 産業振興のための基本的方向

「経済構造のあるべき姿」の実現に向けて3つの視点で整理した現状と課題を踏まえ、産業全般にかかる「産業振興のための基本的方向」を示す。

別紙2

(3) 第6章 基本的方向に基づく分野別の施策の基本方針と取り組み

産業全般にかかる「産業振興のための基本的方向」に基づき、「商業・工業」、「観光」、「農業・畜産業」、「林業」の分野別に、施策の基本方針と主な取り組みを示す。 別紙3

3. 産業振興基本条例との連動性

以下のポイントについて、産業振興基本条例と産業振興計画の連動性を図る。

- (1) 「経済構造のあるべき姿」の共通認識
- (2) 産業振興団体や金融機関、大学等との連携強化
- (3) 中小企業者及び小規模企業者の振興
- (4) 市外資本企業との共生

4. スケジュール

令和2年 1月～ 産業振興団体等との意見交換会

令和2年 3月 決定、公表